

感想文特選作品紹介

「町民読書感想文・感想画コンクール」より

「第1回川根本町町民読書感想文・感想画コンクール」特選作品の紹介 第2回目（中学生・高校生作品）です。

◆島の名前を読んで

中川根中2年 荒間大夢 あらまひむ



「島国」日本はよくそんな言葉で表されます。島国を広辞苑で調べてみると「四方を海に囲まれた国」と出ます。確かに日本は、大陸との間に日本海、太平洋があり、海に囲まれています。そして、日本の周りには約546の島があります。ぼくはこの本を読み、改めて日本は島国だということ強く知ることができ、また、島国であるがゆえに様々な複雑な問題を抱えているということも知りました。

この「島の名前」を読み、名由来も知ることができました。例えば、みなさんも知っているであろう「淡路島」。この島の由来は、古事記の中の神話でイザナキノミコトとイザナミノミコトが、よりを直して最初に産んだ子供が淡路島だという説もあります。そして、ぼくが一番興味を持った島が竹島です。韓国では独島と呼ばれているこの島は1849年フランスのリアンクールという捕鯨船が発見された島です。この島は明治時代まで獨島、松島、りゃんこ島などと呼ばれていました。竹島は日本と韓国の間で、昔から両国の領土権をかけた争いが続いています。この竹島問題について、ぼくはこの島によって争うのではなくもっと有効的に両国が話し合い、もっと友好的になるべきだと思います。歴史的背景から見てもそれは難しいことだとは思いますが、この先の未来にも良いことなのではないかと思うのです。他にも、最近心を痛めるロシアとの出来事、島国であるがゆえに経済水域をめぐる争い、今回は尊厳命を失う事件にまで発展してしまい、本当にかわいそうだと思います。しかし生活をすすめる上では、命をかけてまで国境すれすれで漁をしなければならぬという面もあること

を、身近に知らされました。択捉島、歯舞諸島、国後島、色丹島と北方領土の問題など、たくさんさんの複雑な問題があることがわかりました。そして、この北方領土にはアイヌ語でそれぞれ、択捉島は「エトロフ」岬の多い島「エツ・オロ・プ」鼻の中のものという意味、歯舞諸島は「アプ・オヌ・イ」流水の中にある所という意味、国後島は「キナ・シリ」草の島、色丹島は「シ・コタン」大きい島、本当の集落、極地の集落など、島はそこに人がいた、こんな文化があつたなど、歴史を知る点でもとても重要であり、またその島に住んでいた人々の生活の証であり、生きていたという生命の証でもあるのではないかとぼくは考えます。そしてまた、「こんな島に行ってみよう」と思わせる好奇心をかき立てる場所でもあると思います。淡路島、大島などといった有名な島だけではなく、みなさんにあまり知られていない大中小の様々な島があります。そして、その島一つ一つには人々の生活のあと、大いなる自然なども

ばらしいことがたくさん待っていると思います。この本を読み、今まで関心のなかった島というものに興味を持つことができました。調べていくと、名前の由来一つにしても驚くべきことばかりで、自分の知らなかった多くのことを学ぶことができました。それと同時に、作文の最初にものせましたが、日本は島国であるがゆえにたくさん北方領土、竹島問題などの複雑な問題を抱えているということがわかりました。このことを知り、以前よりもっと社会に目を向け、ニュースなどを見るようになりました。島というものは、この本を読んでとても奥の深いものだと思いました。人々に平和な生活をもたらしたり、一方で国と国とのいがみ合いにも利用されたりと、庶民の生活から政治まで関係するものだというところに気づきました。なので、これからはもっともっと社会に世界に目を向けていきたいです。